

平成26年度 文部科学省委託

「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」

平成27年度 文部科学省委託

「課題解決に向けた主体的・協働的な学びの推進事業」

実

践

事

例

集



【推進地区】  
仙北市

確かな学力を身に付けた  
児童生徒の育成

【協力校】  
仙北市立角館中学校

生徒の「学習力」を伸ばす  
授業づくり  
～「聴く,つなぐ,学び合う」  
授業の追究～



## 1 本研究のねらい

これまで実施された全国学力・学習状況調査の本県の結果について、秋田県検証改善委員会では、安定した成果を上げている学校や課題の改善が顕著な学校の特長を分析し、学力を支える関連因子について「一人一人の学力を伸ばすあきたの学校～5つのエッセンス～」として次のようにまとめた。

- I 全国学力・学習状況調査や秋田県学習状況調査等の結果を踏まえた、学校体制によるP D C Aサイクルの確立
- II 子どもたちが安心して学習できる環境づくり
- III 子どもたちの思考を促し深める授業づくり
- IV 自発的学習を生み出すきめ細かな指導の充実
- V 豊かな教育力を生む学校・家庭・地域の強い連携

これらが示すように、本県児童生徒の学力の一層の向上のためには、各小・中学校が自校の実態に応じて、授業改善や教師の指導力向上、校内の共同研究体制の確立、家庭・地域との連携の充実に向けた取組を進めることが大切である。特に、教科担任制という特徴をもつ中学校においては、指導に当たる教員一人一人が各教科の特質を踏まえつつ、全ての教職員で目指す生徒の姿を共通理解し、共通実践に取り組むことが求められる。

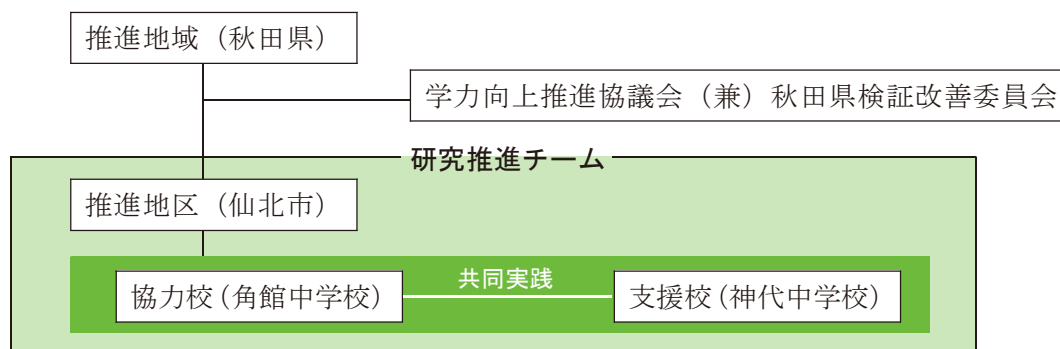
そこで、本研究を平成26・27年度の2か年で推進するに当たり、推進地区における協力校を中学校とし、中学校における共同研究体制の確立、指導方法や指導体制の工夫、指導力の向上に資する教員研修の充実を目指して、研究を進めることとした。

そして、推進地区及び協力校における研究成果を様々な機会を捉えて広く発信することで、本県の各学校における取組の一層の充実と児童生徒の学力向上に寄与できるようにしたい。

## 2 研究の主な内容

推進地区及び協力校は、秋田県検証改善委員会が提唱している「一人一人の学力を伸ばすあきたの学校～5つのエッセンス～」のI～Vの中から、当該地区及び当該校が抱える課題の解決につながる視点をいくつか選択し、それらの具現に向けた取組を進めるとともに、全国学力・学習状況調査及び県学習状況調査の結果を活用するなどして研究の成果を検証する。

## 3 実施体制



※研究の初年度である平成26年度には、協力校1校を指定する。平成27年度には支援校1校を加え、協力校の成果を生かして共同実践を進める。

## 4 主な取組

- (1) 推進地区及び協力校における研究推進を支援する取組
  - ・学力向上推進協議会（兼 秋田県検証改善委員会）を開催し、推進地区及び協力校の研究推進について検証するとともに、指導・助言を行う。
  - ・「一人一人の学力を伸ばすあきたの学校～5つのエッセンス～」に照らし、学力向上において成果を上げている学校の取組例について、学力向上推進協議会の場で情報提供を行う。
  - ・県教育委員会の指導主事等が協力校を複数回訪問し、研究の方向性及び生徒の実態とその変容、授業改善の状況等に対して指導・助言を行う。特に授業改善については、各教科の特質を踏まえた学力向上の視点で、具体的な手立てについて指導・助言する。
- (2) 研究成果の情報提供等に関する取組
  - ・「第30回秋田県教育研究発表会」において、協力校が2年間にわたる研究の取組を発表することとし、参加者との意見交換等を通して、研究成果を客観的に捉えるとともに、広く発信する。
  - ・本研究の取組等をまとめた実践事例集を3月に発行し、県内各小・中学校等に配布するとともに、県公式Webサイトに掲載する。

## 5 成果及び今後の展望

- (1) 成果
  - ・本県の実情及び課題を踏まえ、協力校を中学校として研究を進めるようにした。推進地区においては協力校に加えて支援校を指定して取組の充実及び普及を支援するとともに、協力校においては各教科を貫く共通実践事項に基づいた授業改善の取組と、研究協議等を通じた全教職員による検証改善の取組を進めるなど、中学校における共同研究の効果的な推進に関する事例を得ることができた。
  - ・推進地区及び協力校においては、全国学力・学習状況調査や県学習状況調査を学力向上に向けた検証改善サイクルの中に位置付け、それらの結果を分析することにより、主体的に学習に取り組む意欲や態度、基礎的・基本的な知識・技能の定着及び思考力・判断力・表現力の育成に関する成果と課題を明確に把握することができた。
  - ・推進地区及び協力校の取組を通して、「一人一人の学力を伸ばすあきたの学校～5つのエッセンス～」のⅡ及びⅢについて検証することで、学力向上に向けた関連因子としての妥当性を確認することができた。
  - ・研究成果については、推進地区及び協力校における公開研究会の実施や、県教育研究発表会での実践発表、県公式Webサイトでの配信等を通して広く発信し、他地区での取組の促進に寄与することができた。
- (2) 今後の展望
  - ・推進地区及び協力校における研究推進の成果について、各種事業や学校訪問指導等の機会を利用するなどして普及を図り、学力向上に向けた県内各学校の実態に応じた取組を支援することで、県全体の成果につながるよう努める。

秋田県検証改善委員会では、平成19年度から毎年「学校改善支援プラン」を発行しています。その中で、学力向上に係る特色ある取組を紹介していますので、本事例集と併せて活用してください。「学校改善支援プラン」は、県公式Webサイト「美の国あきたネット」の義務教育課のページ（<http://www.pref.akita.lg.jp/gimukyo/>）からダウンロードすることができます。

### 研究主題

### 確かな学力を身に付けた児童生徒の育成

仙北市教育委員会 教育長 熊谷 徹

## 1 研究の重点

- (1) 児童生徒が積極的に授業に参加できる環境づくり
- (2) 児童生徒の思考を促し深める授業づくり
- (3) 豊かな教育力を生む学校・家庭・地域の連携

## 2 研究の概要

### (1) 実施体制

#### ① 仙北市教職員の集い

毎年4月に仙北市内の教職員が一堂に会しての「仙北市教職員の集い」を開催し、本市の「学校教育の重点」や「学力向上施策」等について共通理解を図り、市内の全小・中学校12校が一体となった取組を推進している。

#### ② 仙北市教育研究会

平成17年度より「仙北市教育研究会」を発足させ、授業公開や研究協議会等を実施している。また、教科等の研究委員会・部会も組織し、教職員の研修を深める機会としている。

#### ③ 協力校、支援校の指定

協力校の角館中学校の他に、平成27年度からは神代中学校を新たに支援校として指定し、協力校、支援校が相互に連携・協力して研究を推進する体制をとっている。

### (2) 教育委員会としての取組

#### ① 仙北市教育研究会研究大会の開催

研究テーマ「自ら問いを発する子どもの育成～9年間の系統的な指導の在り方の工夫～」の下、授業公開や研究協議、会場校の研究・実践発表等を行っており、貴重な情報交換の場となっている。

平成27年度は、協力校による自主公開研究会を本研究大会と兼ねて開催し、学力向上の取組や成果等を県内外に広く発信することができた。



仙北市教育研究会研究大会における研究協議会

#### ② 各種調査を活用した学力向上への取組

4月の全国学力・学習状況調査の他に、仙北市標準学力調査を小2～中3を対象に実施し、きめ細かな学習状況の把握に努めている。12月の秋田県学習状況調査と共に検証改善サイクルに位置付け、調査結果から捉えた課題や改善の方策等を提言し、学校体制でのPDCAサイクルによる授業改善等の推進について指導・助言を行っている。

#### ③ 仙北市教育研究集録の刊行

市内各校の授業研究会の学習指導案や研究協議会記録、成果と課題等を冊子にまとめて刊行し、各校の取組等の情報共有を図っている。

#### ④ 仙北市子どもサミット

年2回、市内の児童会・生徒会の代表者が一堂に会し、各校に共通する課題やその解決のための取組等についての意見交換の場を設けている。自分たちの学校生活やふるさと仙北市をよりよいものにするために、市内12校が協力して諸問題を解決しようとする自主的・実践的な態度の育成に努めている。

### (3) 研究の共有化や家庭・地域への情報発信の取組

#### ① 協力校、支援校による連携した取組

協力校と支援校が、連携・協力して研究・実践を推進するとともに、市内全教職員が参加する「仙北市教職員の集い」等でその取組や成果等についての発表を行っている。

#### ② 教育委員会だより「きたうら」の発行

毎月1回発行している教育委員会だよりには、学力向上等に関する各学校や市教育委員会の取組等を掲載し、市内全戸に配布し、周知・啓発を図っている。

### (4) 成果等の検証

市教育研究会研究大会では、参加者からアンケートをとるようにしている。また、研究主任部会、該当教科の研究委員会所属の教員で「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果分析・改善委員会」を組織し、全国学力・学習状況調査等の分析や今後の具体的な改善策等についての協議・提言を行い、検証・改善に努めている。

また、仙北市公式ホームページには、仙北市「全国学力・学習状況調査」結果分析・改善委員会が作成した学力調査の結果と分析、改善策等の報告書を掲載している。

## 3 推進地区における成果

### (1) 各種調査における成果

全国学力・学習状況調査の平均を県平均と比較したところ（グラフ1）、協力校の角館中学校、平成27年度から指定を受けた支援校の神代中学校のいずれも向上がみられた。仙北市全体の平均も向上し、県平均と同程度となった。

また、同一集団の秋田県学習状況調査における県平均との差の推移の比較（グラフ2）においても、研究・実践の推進とともに確かな学力の向上が読み取れた。

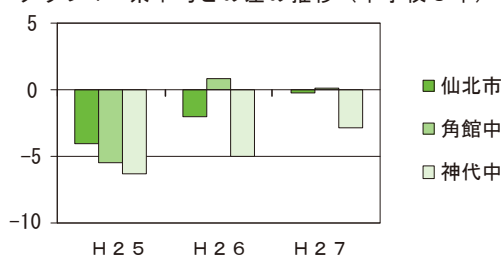
さらに、全国学力・学習状況調査の質問紙の「自分にはよいところがある」の問いに「当てはまる」と答えた生徒の割合（グラフ3）からは、自己有用感の向上が読み取れた。

このように、本事業による研究・実践を協力校、支援校だけでなく、市内中学校全体の学力の向上につなげることができた。

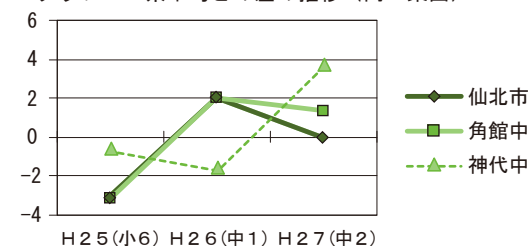
### (2) 公開研究会における成果

県内外から参加した190名の参加者からは、「生徒の疑問や日常体験、つぶやきを生かした学習課題の設定、教師と生徒との良好な関係、学習意欲が素晴らしかった」「伝え合う力を育てる工夫など、大変参考になった」などの肯定的な評価をいただいた。

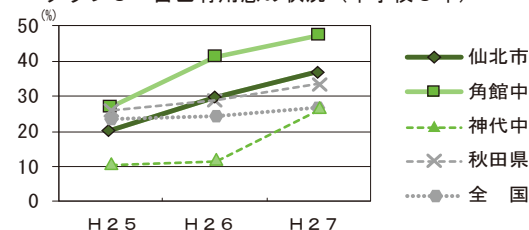
グラフ1 県平均との差の推移（中学校3年）



グラフ2 県平均との差の推移（同一集団）



グラフ3 自己有用感の状況（中学校3年）



## 4 今後の取組

協力校、支援校による連携した取組が他校にもよい刺激となって波及し、結果として仙北市の中学校全体の学力の向上を図ることができた。今後は、次のような取組を通して本事業で得られた成果を更に充実させ、確かな学力の育成に向けて市教育委員会が一層のリーダーシップを発揮していきたい。

### (1) 市教育研究会の更なる充実

本事業の成果を生かし、一人一人の思考を深める授業づくりの更なる推進を目指し、平成28年度は小学校を会場に研究大会の開催を予定している。

### (2) 教育課程研究指定校事業（特別活動）を核とした研究の推進

平成27年度、角館小学校が指定を受け、中間公開研究会を開催した。平成28年度は、4月の「仙北市教職員の集い」で研究の取組や成果等について発表するとともに、11月には公開研究会の開催を予定している。

# 協力校（仙北市立角館中学校）の取組

## 研究主題

生徒の「学習力」を伸ばす授業づくり  
～「聴く、つなぐ、学び合う」授業の追究～

仙北市立角館中学校 校長 佐藤 心一

## 1 自校の課題及び研究仮説等

### (1) 研究当初の自校の課題

- ① 平成26年度秋田県学習状況調査の結果から、県平均通過率を100としたときの各教科の通過率が次のようになり、教科による指導のばらつきが大きいという課題がみられた。

	国語	社会	数学	理科	英語
26年度 2年生 (27年度 3年生)	103.0	86.5	105.6	97.3	98.9
26年度 1年生 (27年度 2年生)	106.9	105.6	105.4	94.1	101.9

- ② 全国学力・学習状況調査質問紙に関連する、平成26年度秋田県学習状況調査生徒質問紙の項目に着目すると、肯定的評価（「当てはまる」・「どちらかといえば当てはまる」）が県平均を下回るものがあり、生徒の主体的な学習活動が不十分であるという課題がみられた。

	26年度 2年生 (27年度 3年生)	県平均	26年度 1年生 (27年度 2年生)	県平均
○ふだんの授業では、自分の考えを発表する機会があると思う [%]	91.1	91.8	96.1	92.1
○ふだんの授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思う [%]	87.2	91.4	99.1	92.4

- ③ 昨年度の教師の意識調査の結果から、次に示すように「学力の3要素」の全てに課題がみられた。

- 基礎的・基本的な知識や技能の定着状況に個人差が大きい。
- 根拠を基に、自分の考えを説明する力が不十分である。
- グループでの学び合いの成果を全体に向けて表現しようとする意欲が不十分である。

### (2) 研究仮説

「健全な心力と体力」の育成を目指した取組を継続・充実させながら、全校体制で授業改善の在り方を追究していくことにより、生徒が自ら学ぶ「学習力」が高まり、「心力・体力・知力を鍛え、求めて学ぶ生徒」を育むことができる。

### (3) 研究を進めるに当たり重視したこと

#### ① 課題と検証計画の明確化

生徒の「学習力」	検証計画	
<b>学力の三要素</b>	3年生を対象に	1・2年生を対象に
基礎的・基本的な知識及び技能	全国学力・学習状況調査A問題の活用	秋田県学習状況調査・仙北市標準学力調査の活用
活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力	全国学力・学習状況調査B問題の活用	秋田県学習状況調査質問紙の活用
主体的に学習に取り組む態度	全国学力・学習状況調査質問紙の活用	秋田県学習状況調査質問紙の活用
<b>求めて学ぶ生徒</b>		
主体的な学習活動の場面	スキルの定着・家庭学習・自己表現	
めあてや学習課題の提示	全国学力・学習状況調査質問紙を活用した生徒アンケート	家庭学習調査
発表	教科の見取り	家庭学習調査
話し合い	秋田県学習状況調査質問紙を活用した生徒アンケート	教科の見取り
まとめ・振り返り	家庭学習調査	教科の見取り

#### ② 継続的な検証改善サイクルの立案

今年度の継続的な検証改善サイクルのスケジュール		
短期的課題は基礎的・基本的知識や技能	中・長期的課題は活用する力や意欲	
4月 仙北市標準学力調査	1・2年の5教科 3年の英語・社会	<b>継続課題</b> 根拠を基に自分の考えを説明するなど、活用する力 9月 全国学力・学習状況調査と、1・2年生を対象とした7月の生徒アンケートの結果から「求めて学ぶ生徒」に必要な主体的な学習活動が不十分 12月 秋田県学習状況調査と、3年生を対象とした12月の生徒アンケートによる検証（新たな課題の把握） 次年度に向けた計画立案
4月 全国学力・学習状況調査	3年の国語・数学・理科	
7月 改善のための取組		
10月 県学習状況調査過去問題を活用した検証（新たな課題の把握）	1～3年の5教科	
11月 改善のための取組（全校体制で学び直し）		
12月 秋田県学習状況調査	1・2年の5教科	
2月 改善のための取組（全校体制で学び直し）		
2月 検証（新たな課題の把握）		

## 2 研究の内容及び取組

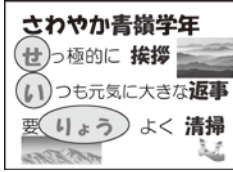
### (1) 健全な「心力」と「体力」を基盤とした「知力」の向上について

#### ① 学年生徒会及び全校生徒会を中心とした日常的な取組

[平成26年度の取組]

##### ア 「心力」を高める取組

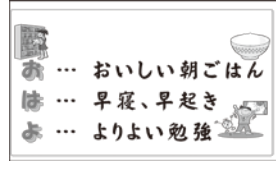
【人間関係調整能力】  
「仲間が好き」という感情  
○「先に挨拶, 元気な返事, 協力する清掃」



【現3年生のスローガン】

##### イ 「体力」を高める取組

【規則正しい生活習慣の確立】  
「学校が好き」という感情  
○「家庭学習, 早起き, 朝食で元気に登校」



【現2年生のスローガン】

[平成27年度の取組]

##### ア 集会活動の計画的・継続的な実施



【300人全員に集団を前にしての発表活動を】



【体育委員会を中心に】

##### ウ 「家庭学習調査」の実施

※ 目標時間 1年生80分間 2年生90分間 3年生100分間  
※ 朝の学活で書きましょう。

例	曜日	学習内容	時間(分)
8月24日	月	宿題(英語) 復習(漢字) 予習(数学)	120
8月24日	月	宿題(小勉強・B) 予習(数学)	106
8月25日	火	宿題(小勉強・B) 復習(英語)	101
8月26日	水	宿題(小勉強・B) 復習(漢字)	76
9月1日	火	宿題(小勉強・B) 復習(英語)	169
9月2日	水	宿題(小勉強・B) 復習(英語)	259

前学期期末テストに向けた家庭学習の状況について、家の人から感想を書いてもらいましょう。  
五教科をまんべんなく学んでいる様です。得意教科と二科目の得意教科の勉強を頑張っています。勉強の楽しさを伝えていきたいと思います。

#### ② 学校間協力体制の強化

##### ア 中学校区内小学校3校との小中連携

##### イ 隣接する神代中学校との中中連携

##### ウ 角館高等学校との中高連携

##### エ 仙北市教育研究会との連携

- 5月11日 第1回連絡協議会(校長・教頭・研究主任など各校から5名ずつの参加)
- 8月19日 連携の会(小学校3校・中学校2校の全職員が「授業研究班」「表現活動班」「深化・補充班」の3班に分かれて研修)
- 9月1日 中高学習指導研究協議会(中高ともに5教科ずつの提案授業)
- 10月23日 自主公開研究会に仙北市教育研究会員160名と県内外から30名が参加

##### ○「授業研究班」の取組

共通実践項目  
「学び合いのある」授業を目指す  
キーワード・追究に耐える課題  
・聴く  
・グループ学習

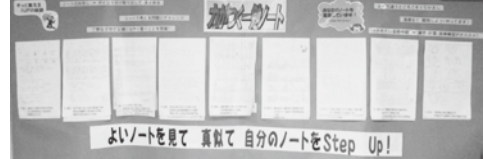
【お互いの授業を見合う】

##### ○「表現活動班」の取組



【学校行事を小学生が参観】

##### ○「深化・補充班」の取組



【1年生の一人勉強ノートを小学生に紹介】

#### ③ 諸機関との連携強化と地域の人材活用

##### ア 「先輩と語る会」の開催



【地域と共に生きる心構えを】



##### イ 進路学習の系統化

- 1年 ●秋田市職場訪問  
●国際教養大学訪問
- 2年 ●職場体験活動  
●専門学校訪問(修学旅行)
- 3年 ●高校体験入学・学習体験  
●大学訪問と専門学校訪問  
●秋田市内の高校教諭(進路担当)の講話

【上級学校や職業から目指すべき将来像を】

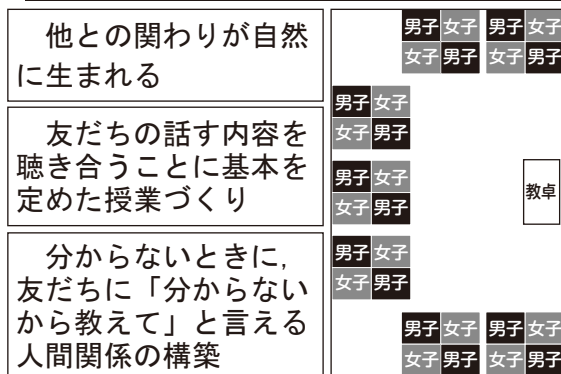
##### ウ 総合的な学習の時間の充実



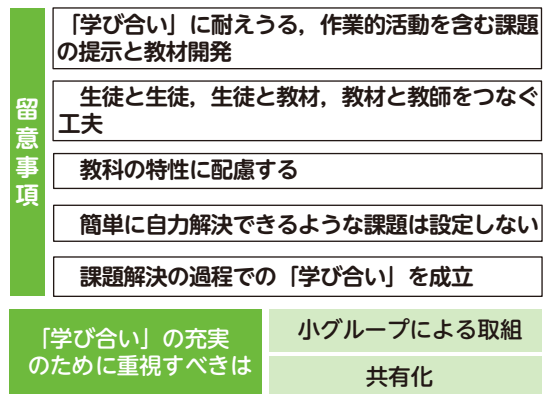
【地域への誇りと愛情を】

(2) 「聴く、つなぐ、学び合う」授業の追究について

① 市松模様の男女4人構成を基本とするグループによるコの字型形態の日常的実践



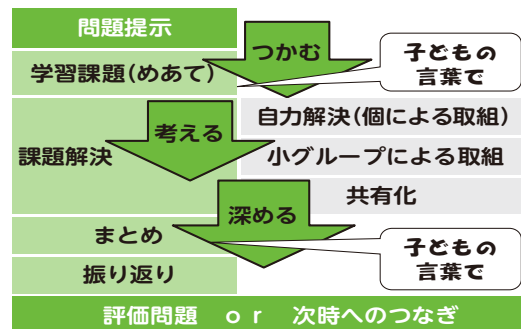
② 課題解決型の授業提示



③ 同僚性の構築を目指した校内授業研究会

	教科の枠を超えて	一人一授業
授業の視点	子どもたちはどのようなところでつまづいているのか、そして、それをどのように克服しているのか	子どもたちの思考を促し深める授業づくり
	「つなぐ」という視点から、子どもたち同士の間関係について	子どもたちが安心して学習できる環境づくり
	この授業を通して学んだことは何か	教師と教師をつなぐ

◇目指す1単位時間の授業の流れ◇



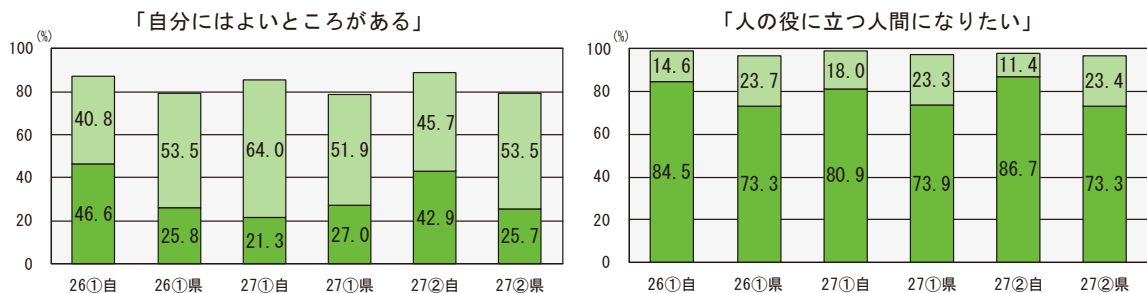
3 研究の取組による成果

(1) 「心力・体力・知力」の向上について

- 相手意識を大切にした発表活動を実現することにより、「聴く、つなぐ、学び合う」ための基盤となる、相手の話を最後まで聴く習慣が定着した。また、自己有用感や相手を思いやる心の醸成につながった。
- 主体的に「体力づくり」に取り組む意欲や持久力の向上が図られた。
- 家庭学習への取組状況が改善した。

成果に関連する調査結果

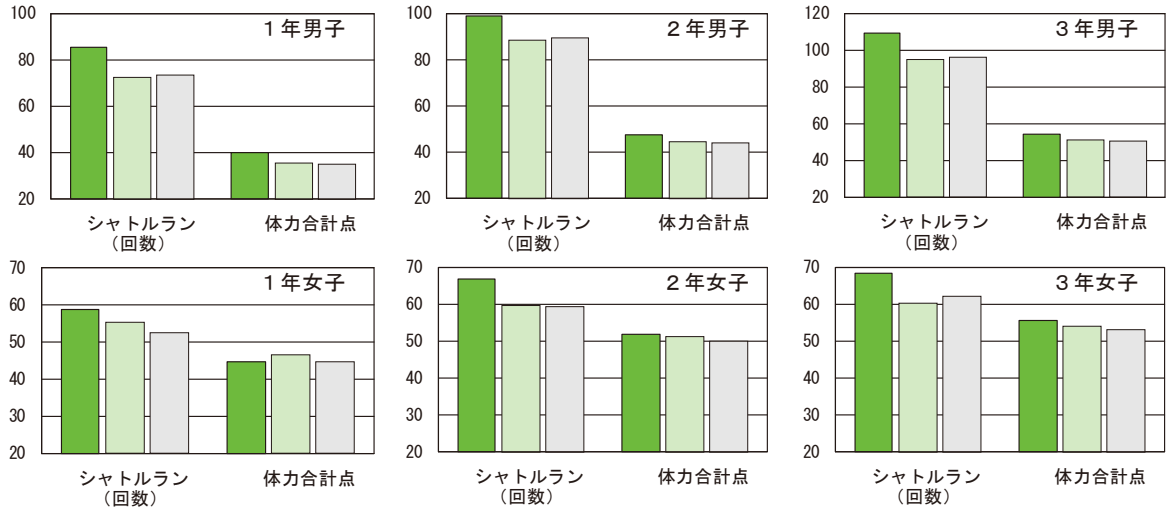
① 「心力」の向上 (秋田県学習状況調査の結果から)



※グラフ下の項目：左から順に年度，○数字は学年，自校平均と県平均の別  
 ※「26①自」と「27②自」は同一集団  
 ※グラフ内の数字：下から順に「当てはまる」，「どちらかといえば当てはまる」の値



② 「体力」の向上（平成27年度 新体力テストの結果から）



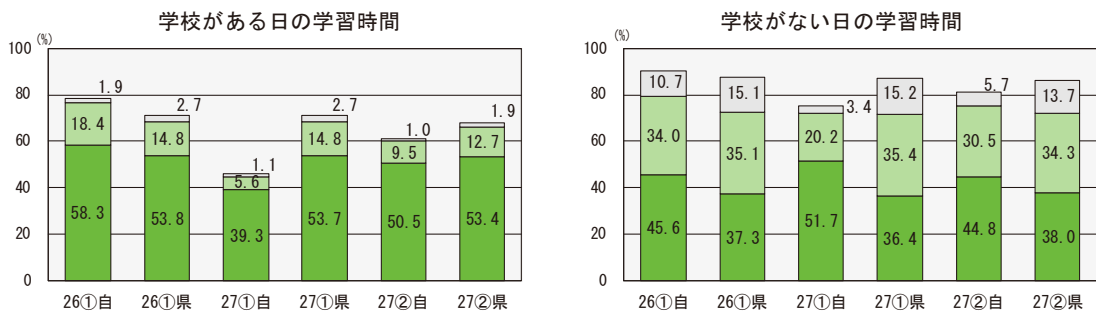
③ 「知力」の向上

ア 「家庭学習調査」の結果から

家庭学習に取り組む時間が，調査を重ねるごとに長くなっている。

期間内の平均学習時間：単位は分								
第1回家庭学習調査の結果			第2回家庭学習調査の結果			第3回家庭学習調査の結果		
学級名	学級平均	学年平均	学級名	学級平均	学年平均	学級名	学級平均	学年平均
1年A組	87.8	88.5	1年A組	105.7	102.7	1年A組	124.6	140.3
1年B組	84.0		1年B組	91.8		1年B組	141.2	
1年C組	97.7		1年C組	112.0		1年C組	164.1	
2年A組	95.4	90.8	2年A組	101.6	100.6	2年A組	136.8	124.2
2年B組	105.6		2年B組	118.8		2年B組	142.7	
2年C組	88.3		2年C組	85.7		2年C組	110.5	
2年D組	73.9		2年D組	106.8		2年D組	126.3	
3年A組	109.2	98.5	3年A組	120.8	107.6	3年A組	142.3	143.8
3年B組	115.2		3年B組	106.0		3年B組	166.5	
3年C組	88.6		3年C組	110.2		3年C組	130.6	
3年D組	83.7		3年D組	95.4		3年D組	128.7	

イ 秋田県学習状況調査の結果から



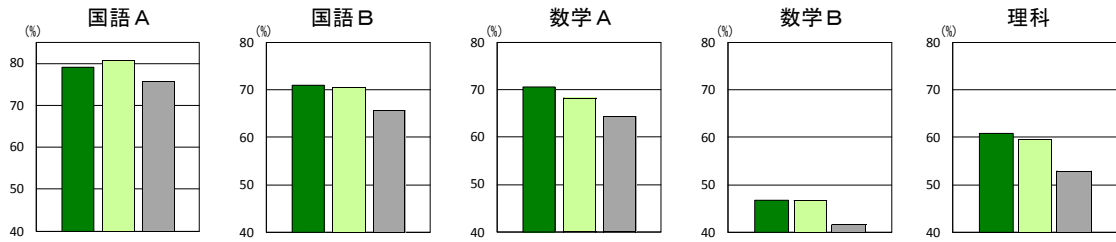
※グラフ下の項目：左から順に年度，○数字は学年，自校平均と県平均の別  
 ※「26①自」と「27②自」は同一集団  
 ※グラフ内の数字：上から順に「3時間以上」，「2時間以上，3時間未満」，「1時間以上，2時間未満」の値

(2) 生徒の「学習力」の向上について

- 各種調査で捉えられる「学力の3要素」の定着状況については，県平均あるいはそれを上回るまでに改善された。
- 主体的に学習に取り組むスキルや意欲の向上が確認できた。
- 学校評価の結果では，生徒の96.5%が男女4人のグループでの学び合いを肯定的に捉えている。

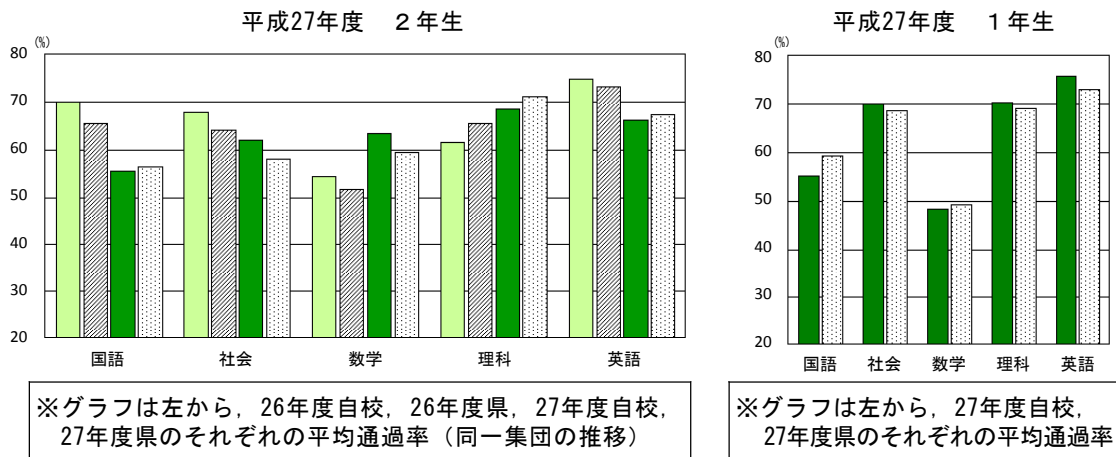
成果に関連する調査結果

- ① 基礎的・基本的な知識・技能の定着及び思考力・判断力・表現力等の向上について  
 ア 全国学力・学習状況調査（平成27年4月実施）の結果から



※グラフは、左から自校、県、全国のそれぞれの平均正答率

- イ 秋田県学習状況調査（平成27年12月実施）の結果から



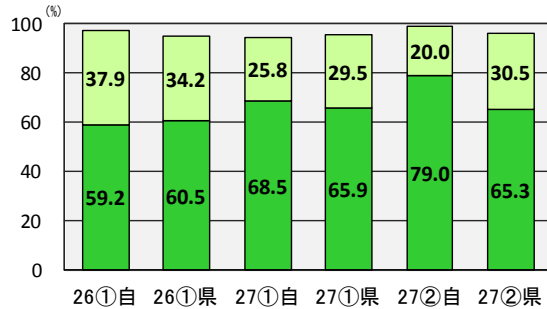
※グラフは左から、26年度自校、26年度県、27年度自校、27年度県のそれぞれの平均通過率（同一集団の推移）

※グラフは左から、27年度自校、27年度県のそれぞれの平均通過率

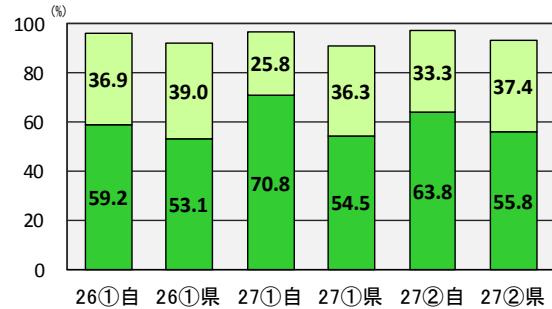
- ② 主体的に学習に取り組む態度の向上について

- ア 秋田県学習状況調査（平成27年12月実施）生徒質問紙の結果から

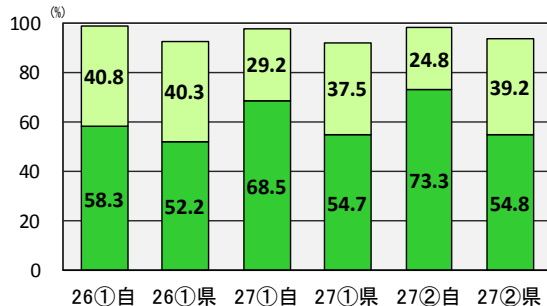
はじめに授業の目標（めあて・ねらい）を立てて取り組んでいる



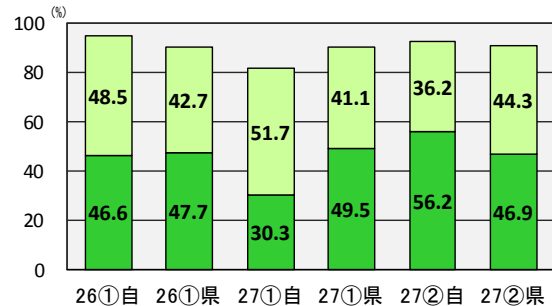
自分の考えを発表する機会がある



学級の友だちとの間で話し合う活動をよく行っている



最後に学習活動を振り返る活動をよく行っている



※グラフ下の項目：左から順に年度，○数字が学年，自校平均と県平均の別

※「26①自」と「27②自」は同一集団

※グラフ内の数字：下から順に「当てはまる」，「どちらかといえば当てはまる」の値

### (3) 「求めて学ぶ」生徒の姿の実現

○授業において、「根拠を基に説明する」、「学んだことを生かす」生徒の姿が見られた。

#### ① 学習シート等の記述内容から捉える生徒の姿

<p>[1年国語] 課題を解決する過程で見られた「根拠を基に説明する」生徒の姿</p>	<p>[1年理科] まとめや振り返りの内容に見られた「学んだことを生かす」生徒の姿</p>

#### ② 自主公開研究会（平成27年10月）における指導主事の指導・助言や参観者の感想から

指導・助言	1年国語	ゴールに向かって学習活動をスモールステップで進める中で、生徒から解決すべき必然性をもった課題が出され、それらの課題を解決していくことで、本時のゴールに到達する授業だった。
	1年理科	前時までの学習や生活体験から、生徒自身が課題設定することで、自分のものとなっていた。子どもたちは、課題に対する答えとして、しっかりとまとめていた。生徒・教師ともに、まとめの位置付け、まとめの意味をしっかりと意識していた。
助言	1年英語	男女の仲がよく、親和的でオープン。机の配置の効果が感じ取られた。興味を引くデモンストレーションがなされ、ゴールの姿が最初に示されたことは大切。見通しを示すことで、生徒は安心して取り組むことができ、授業の終末には自分の学びを実感できていた。
	3年保健体育	活動集団が個からペア、小グループ、大グループへと変化する、一貫性のある指導が見られた。ポイントを明示したことで、ペアでのアドバイスが活発になり、「つなぐ」活動になっていた。
感想	2年美術	生徒同士の関係がとてもよく、試作でのグループ活動が活発で、個々の新たな発想や構想を促していた。この題材は、角館中学校の生徒のために生み出したオリジナルなものである。ふるさとへの思いをあかりの製作を通して今後更に深めてほしい。
	3年社会	発表者と聞き手のルールがしっかりと身に付いている。発表の仕方が鍛えられており、前の発表者の意見に付け足して自分の考えを述べたり反論したりしている。はじめは分からないことでも、話し合い活動を行うことで「なるほど」「そうか」等の声が自然と出ていた。
感想	3年数学	授業の流れが分かりやすく、キーワードが整理された板書構成だった。一単位時間の授業の流れやノート指導、実物を使っての問題提示、他者説明など、小学校から中学校への学び方の系統性が見られる授業であった。

### (4) 授業改善に対する教師の意識の高揚（教師の意識調査の結果から）

- ・生徒の主体的な学習活動を支援する意識が高まった。
- ・校内研究会により、他教科の授業から学ぶことが多かった。
- ・学習のまとめにおける工夫や、ノート指導の在り方の改善など、課題が明確になった。

## 4 課題に対する今後の取組

課 題	今後の取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆9年間のスパンで児童生徒を育てる意識の向上</li> <li>◆キャリア教育における小中の連携強化</li> </ul>	◇児童生徒への系統的な指導を目指した学校間協力体制の強化
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆課題解決型の授業を基にした基礎的・基本的な知識や技能を習得させるための取組の充実</li> <li>◆各教科における、ねらいに迫るための言語活動の共通理解</li> <li>◆学びの連続性による主体的な学習活動に結び付く、まとめやノート指導の充実</li> </ul>	◇教科の枠を超えた取組の在り方を検討する、教科主任会の開催

